

遊技電子機器や携帯電話をはじめとする、電子部品のプリント配線基板の開発・設計・製造・卸を手掛ける『ビズソリューション』。中国で基板を製造し、出来上がった製品を日本のメーカーに卸している。日本と中国の架け橋としての役割も担う同社代表取締役の原田氏に女優の渡辺めぐみさんがお話を伺った。

中国の工場と協力体制を築くことで 効率の良いプリント配線基板の製造を実現



代表取締役 原田 盟久

大学卒業後、大手電子部品メーカーに就職する。営業部門や管理部門、経営企画など、約十五年にわたって経験を重ねる。そして、「自分が思い描くものを実現させたい」と独立を決意。仲間と共に『ビズソリューション』を立ち上げた。



株式会社 ビズソリューション

埼玉県川越市喜多町 2-9 原沢ビル 2F
TEL 049-228-8800 FAX 049-228-8811

BIZ SOLUTION (HK) Ltd

香港九龍觀塘開源道 49 號創貿廣場 6 字 603
【広州事務所】 広州市番禺區馬山大道 91 號金悦大廈 2 座 1503
TEL (020) 84816748 FAX (020) 84816738

渡辺 はじめに原田社長の歩みからお聞かせください。

原田 学業修了後は電子部品を扱う会社に就職、営業部門や管理部門、経営企画に携わり、様々な経験をさせていただきました。15年ほどそちらで働いていたのですが、「自分の力で事業を手掛けることによって、『中国と協力関係を築き、製造を行う』という理想を実現させたい」と思うようになりましてね。『ビズソリューション』を立ち上げ、独立したのです。次第に同じような意志を持ったかつての同僚たちが集まり、体制を整えてきました。

渡辺 実際に『ビズソリューション』さんをスタートされていかがですか。

原田 やはり大変でしたね。立ち上げて

1年目はルート作りに専念し、2年目にやっと軌道に乗りました。スタッフ皆で休みなく働いたからこそ、得られた結果だと思えます。

渡辺 そうした頑張りがあったからこそ、今の成長があるのですね。それでは具体的な事業内容をお聞かせください。

原田 当社では主に遊技機器のプリント基板の開発から設計までを手掛けています。設計した基板は中国で生産し、出来上がった製品を日本の遊技メーカーに卸しているんです。また遊技機器だけでなく電気機器全般の基板を扱っており、携帯電話のバックライトなどに使われているLEDの配線板やデジタルカメラ用配線板の製造も行っています。大手企業とも取引させていただいていますし、以前

現地の文化を尊重し、心の通った関係を築く

▼コスト削減のために、中国に進出する企業は多い。そうした中、『ビズソリユーション』はビジネスのためだけではなく、技術指導を含めた協力体制を築くことを目指している。

▼「同じアジアといっても、日本と中国の文化は異なります。日本の考えを押し付けず、相手の文化を尊重することが大切」と語るのは同社の原田社長。現地の文化や環境の違いをふまえた上で仕事することは、中国に限らず海外へ進出する際には最も重

要な考えである。

▼また現在目覚ましい発展を続ける中国では、サービスやマナー教育に力を入れる企業も増えてきたという。さらに中国の人々の意識にも変化が見られるようになった。「中国が変わりつつある今こそ、お互いに理解を深めるチャンス。中国の文化や人々を知り、知り得たことを日本に紹介したい」と原田社長は語る。これからも、日本と中国のより良い関係作りに貢献してくれることだろう。



「スタッフ一人ひとりが経営者だと考え、責任を持って仕事に取り組んでいます」

動めていた会社とも仕事を通じて良い関係を築いているんですよ。

渡辺 製造は中国で行われているのですが、同じアジアとはいえ文化が違いますから、苦勞されることもあるのではないですか。

原田 ええ。言葉や文化の違いから、意図が十分に伝わらないことも時にはあるでしょう。お互いの思いが行き違わないよう、文化の差を埋めることが大切です。当社ではスムーズなコミュニケーションを図れるようにと、中国人スタッフを日本に呼び、日本人では解決しきれない問題に対応してもらっています。また香港に法人を持ち、現地中国にも事務所を構えていましてね。中国での基板製造におけるサポート体制を整えています。

渡辺 なるほど。現地の人だからこそ分かることもありますし、実際に作業される方にとっても心強いですね。

原田 そうですね。それに当社はビジネスだけではなく、いかに中国の方々と良い関係を築けるかを追求しています。「技術指導を含めて、お互いに協力し合える関係」を築きたいと考えているんです。

相手の文化を尊重し、相手の価値観を理解した上で、ビジネスを展開していくことが大切なんですよ。

渡辺 中国に限らず海外で仕事をする上で必要な考えですね。スタッフの皆さんにはどういったことをお話しされているのですか。

原田 一人ひとりが経営者だという意識を持って、それぞれが責任のある仕事をするようにと言っています。私の肩書は“代表取締役”ですが、それはあくまで商法上のものであり、スタッフ一人ひとりが主役だと考えているんです。その分、個人のプレッシャーも大きくなる

かも知れません。しかし困難な状況に直面した時は、皆でフォローしているんです。スタッフの力を最大限に発揮できるところ、会社の拡充を図ることができると思います。

渡辺 なるほど。自分の力が試されるからこそ、責任を持って仕事に取り組む意識が強まるのですね。それでは今後の展望をお聞かせください。

原田 利益を伸ばすことだけに集中しないようにしていきたいですね。これまでのように仲間が自然に集まることで、自然に業績もアップするのが理想。優秀な人材が集まるような魅力的な会社であり続けたい。これからも会社の拡充を図るべく邁進していきます。

渡辺 陰ながらではありますが、私も応援しています。本日はありがとうございました。

「『相手の文化を尊重することが大切です』と語る原田社長。どんなに距離が近い国であっても文化は異なりますから、小さな解釈の違いが、大きな溝となってしまうこともあるでしょう。海外で仕事を手掛ける際には、他文化を理解することが重要なんです。『ビズソリユーション』さんには、ぜひこれからも中国と日本の架け橋として、文化交流にも力を注いでいただきたいと思っています。今後、ますますのご活躍を期待しております」



渡辺 めぐみ(女優)